



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 5号



海苔の季節が到来！

アサクサノリ生育観察実験始まる

昨年、約40年ぶりに復活した大森の海での海苔づくり。ふるさとの浜辺の沖合で今年も始まりました。

まず、10月8日に海苔網をはる支柱を立てました。その後11月12日には支柱に網を張り、そこに海苔の糸状体がついたカキ殻をぶら下げる作業が行われました。海苔がすでについている網をはって育てた昨年に比べると難しい方法となりますが、現在海苔の胞子がついたかどうか毎日観察をしているところです。どんどん寒くなるこれからが海苔が育つ季節です。今年も海苔が採れるといいですね。

ふるさとの浜辺に行くと、沖の干潟の手前に支柱が立っているのを見ることができます。収穫した海苔は子供たちの海苔つけ体験に使われる予定です。

なお、実施は「アサクサノリ生育観察実行委員会」（海苔のふるさと会、大森ふるさとの浜辺を育てる会、大森本場乾海苔問屋協同組合によって構成）が行っています。（文）



11月9日（日）に、今期初めての海苔つけ体験を開催しました。参加者は、元生産者の方々から寒い海で海苔を採った話を聞き、海苔づくりを行いました。

乾した海苔は、参加者に送り焼き海苔にして味わってもらいました。

海苔つけ体験はとても人気がありますので、ぜひお早目にご応募ください。

■海苔つけ体験 今後の予定■

日時	お申し込み開始日
12月7日（日）	11月21日（金）
1月18日（日）	12月21日（日）
2月15日（日）	1月11日（日）
3月15日（日）	2月21日（土）

お申し込み：午前9時から電話または窓口にて受付
対象：どなたでも 定員：先着50名

海苔つけ体験
お申込みはお早めに

また、この他に月二回ほど、郷土学習のために区内小学校の海苔つけ体験を受け入れていきます。本物の道具を見学し、体験をする学習は、子供たちにとっても好評です。

（まこ）



協力者の方に、公園側の門の前へ昔ながらの海苔乾し場を建ててもらいました。早速、小学校の体験で作った海苔を干したところ、かつての大森の風景がよみがえったようでした。この乾し場は、冬の間設置し、体験学習などで作った海苔を乾すために使います。（まこ）

よみがえる
大森の風景



大田ふれあいフェスタ2008

11月の8日・9日に大田ふれあいフェスタが行われ、ふるさと館は「ふるさとの浜辺エリア」として今年から参加しました。

2日間とも「大森橋本はやし保存会」の軽快なお囃子で始まり、1日目は海苔の即売会やジャンボ海苔巻き大会が、2日目には「大森甚句保存会」による踊りや海苔つけ体験、海苔焼き機の稼働実演や室内演奏などが行われました。最後は大田区職員・有志で構成される「大田区役所 くすのき連」他2連の華麗な踊りで、フェスタを締めくくりました。(りょう)



報告 海苔のまちを伝える

10月25日(土)に元海苔生産者平林義正氏のお話、11月22日(土)に東京海洋大学生の案内によるまち歩きと、2回にわたって海苔のまち大森を再発見しようという連続講座「海苔のまちを伝える」を開催しました。

1回目のお話しでは、昭和初期の海苔づくりの様子を記録したVTRを見たあと、古い写真や地図を交えながら当時の暮らしぶりやまちの移り変わりといった貴重なお話を聞くことができました。

2回目のまち歩きでは、水圏環境コミュニケーション学実習という授業で大森のまちを調べてきた東京海洋大学生が参加者を案内しました。地域の方の貴重なお話をみんなで聞いたり、若い人ならではのユニークなまちの見方に感心したりと、楽しみながらいろいろな発見をすることができました。(文)



＊ コラム

アサクサノリ生育で船上での作業や、海苔干し場を建てるときなど、元海苔生産者の方々が力を合わせて作業する場面では、大森地域の言葉で話しているのを耳にしました。

「テメーガッテじゃ、モヤッテもらえねえからよう(自分勝手では、協力し合って貰えない)」海苔の仕事は共同で行う作業も多く、モヤウ＝協力し合うのは、とても大切なことだったそうです。

独特の言葉使いや人の繋がりなど、形に残らない大切なものも、伝えていけたらいいなと思います。(まこ)

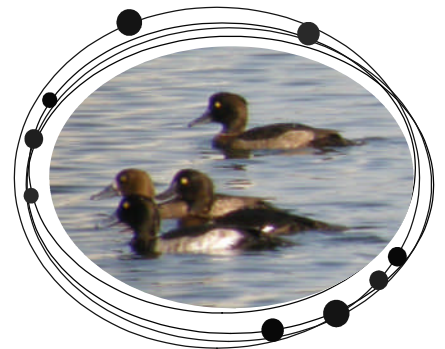
ふるはま冬の生き物観察

～冬の来客、水鳥～

冬になると、シベリア方面からカモなどの渡り鳥がたくさん日本にやってきます。ふるはまでもいろいろな種類のカモが見られます。

沖合に目を向けると、長い尾をまっすぐ立てて首から頭にかけて白いマフラーを巻いたような「オナガガモ」。まっ白いコートに黒い帽子、そしてポニーテールみたいに黒い髪をなびかせている「キンクロハジロ」。そのほかにもホシハジロ、ヒドリガモ、スズガモなどが羽を休めています。砂浜や空には、白い体にくちばしと脚の赤が目立つユリカモメもよく見られます。

冬でも鳥がたくさんいるふるはまにぜひ足をのびしてみてください。まだまだ他にも北からのお客さんが見られる‘カモ’しれません。(渡辺)



おススメの本

『昭和30年代の大田区 ～蘇る青春の昭和』

企画：東京都書店商業組合大田支部 1,900円+税
(発行日：2008年11月/発行：三冬社)

大田区育ちの団塊世代である私にとって心温まる本が出ました。丸いちゃぶ台を囲んだ今は亡き父母の笑顔・おかつば頭・いがぐり坊主、子どもの頃を思い出します。平林理事長のコラムは「大森に海苔漁があった頃」。いつもふるさと館に海苔つけの指導にきて下さる協力者のみなさんが、今は盛んと浜で海苔漁をしている姿があります。

古きをたずねて新しきを知る。ふるさと館の大切な1冊となりました。(信田)

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」5号

平成20年12月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347